



沖縄の建築

沖縄建設新聞編

内田 栄司 株式会社 バウ設計集団

— 建築に感動を —

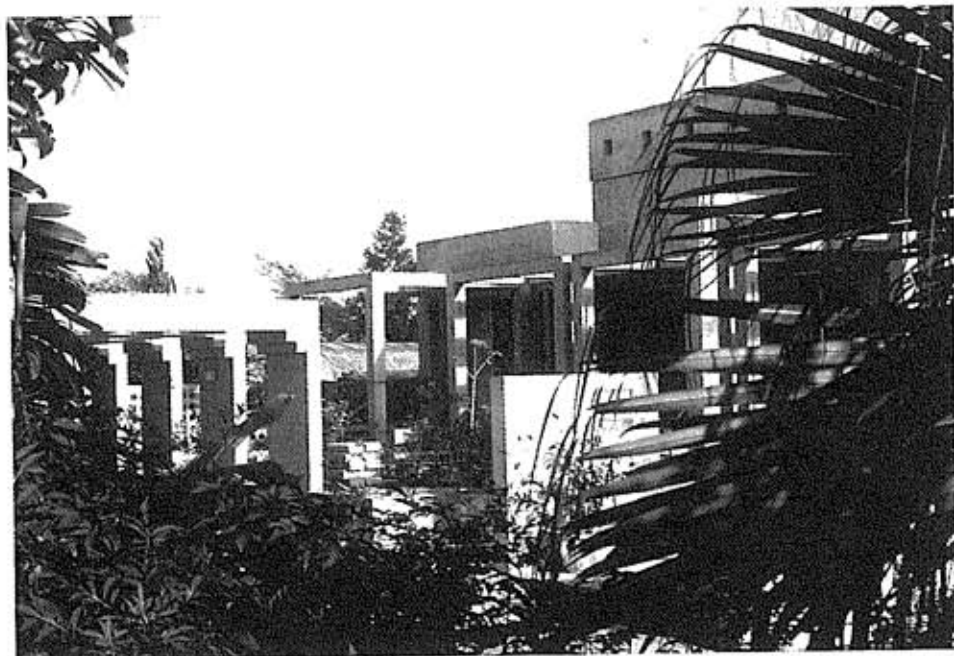


1948年に東京で生まれる。
1969年に早稲田大学理工学部機械工学科より建築科に転科し、1972年に卒業後同大学大学院に進み、吉阪隆正研究室にて都市計画を学ぶ。大学院での2年間に、仙台都市計画や象設計集団による名護市都市計画に参画すると同時に、久高島の調査を中心に沖縄の集落研究に専念する。1974～1982年の間は榎竹中工務店設計部に在籍。退社後沖縄に本居地を移し、1984年に現在の主宰事務所を設立した。

榎バウ設計集団の主宰者、内田栄司氏は東京都の出身。学生時代に沖縄を旅して、沖縄にはれ込む。大学院生時代には、沖縄の久高島などの集落を都市計画の視点から調査しはじめ、すっかり沖縄の風土に魅かれるようになった。1984（昭和59）年、BAU設計集団を設立するが、その名称は「バウハウス」から取ったとのこと。

バウハウスとは、第一次世界大戦後（1919年）ドイツの建築家ワルター・グロピウスによって開設された総合造形学校の名称。芸術活動を個人々の作業から集団の作業へと芸術の総合化を提唱、建築を中心に彫刻、絵画、家具、織物などの総合化を図った。

「ドイツのお菓子のバウムクーヘンというのがあるが、バウの意味はもと



仲本邸—1987 宜野湾市（施工：東建設）

同上 テラスと庇フレーム

